

地域医療支援病院

小田原市立病院

Odawara Municipal Hospital

広報誌

No.10
2021

エル

腎臓内科 ～慢性腎臓病に早期から末期まで向き合う～

新任医師の紹介

新看護部長インタビュー

コロナ禍でつながる連携の輪

新型コロナウイルス感染症対策

連携施設紹介 ～石井呼吸器内科医院～



腎臓内科 ～慢性腎臓病に早期から末期まで向き合う～

慢性腎臓病(CKD)とは？

最近、テレビ CM でも啓発活動が行われていることで慢性腎臓病もしくは CKD (Chronic Kidney Disease) という言葉を聞いたことがあるかもしれません。これは簡単に言えば数か月以上、腎臓に何かしらの異常をきたしていることを指す言葉で、この言葉の背景には早期 CKD に治療介入することで、末期腎不全にいたる患者さんを減らしたいという腎臓内科医の思いがあります。腎臓は尿中へカラダの毒素や余計な水分を捨てたり、造血ホルモンを分泌したり、ビタミン D を活性化したりと多くの機能を持っており、とりわけ重要なことを“肝腎”と呼ぶように、ヒトのカラダにおいて重要な臓器の 1 つです。毒素や水を捨てる能力が低下して、食事療法や内服だけではあふれてしまうほど腎機能が悪化した場合にそれを末期腎不全と呼び、腎代替療法（透析療法もしくは腎移植）を考慮します。透析を始めると生活が大きく変化し、生活の質が低下するため、末期腎不全に至らないように早期 CKD への治療介入が我々腎臓内科にかかわるスタッフの目標の1つです。



腎臓内科 医長
濱野 直人

早期CKDを発見するには

早期 CKD は検尿異常もしくは高血圧から始まることが多いです。日本では健診制度が発達しており、検尿異常もしくは高血圧のみの早期 CKD を発見する機会が多いです。検尿異常は大きく尿蛋白と尿潜血がありますが、特に尿蛋白は放置すると末期腎不全のリスクが上がります。そのため健診を受ける機会がある方はぜひ受診していただき、尿蛋白陽性を指摘されたら一度腎臓専門医を受診することをおすすめします。高血圧も特に症状もないため忘れがちですが、長く放置すると腎臓がどんどん縮んでしまい、いずれ末期腎不全に至ります。最近は副作用も少なく優秀な降圧薬が多く存在します。たかが高血圧と思わずにぜひ治療を考えてみてください。糖尿病は末期腎不全に至る原因疾患のナンバー 1 です。適切な血糖コントロールが腎機能悪化スピードを抑えるためには重要ですので、かかりつけの先生とよく相談してください。また腎臓と関係のない疾患でかかりつけの方も採血でクレアチニン、もしくは eGFR という項目があった場合、クレアチニン値が 2.0 以上、もしくは eGFR が 45 を下回った場合は、一度腎臓専門医の受診を考慮してください。(図)

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日) 尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
		30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 その他	尿蛋白定量 (g/日) 尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	正常 (-)	軽度蛋白尿 (±)	高度蛋白尿 (+)
		0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/ 1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90	血尿・なら紹介、 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G2 正常または軽度低下	60~89	血尿・なら紹介、 蛋白尿のみならば生活指導・診療継続	紹介
	G3a 軽度~中等度低下	45~59	40歳未満は紹介、 40歳以上は生活指導・診療継続	紹介
	G3b 中等度~高度低下	30~44	紹介	紹介
	G4 高度低下	15~29	紹介	紹介
G5 末期腎不全	<15	紹介	紹介	紹介

上記以外に、3ヶ月以内に30%以上の腎機能の悪化を認める場合は速やかに紹介。
上記基準ならびに地域の状況等を考慮し、かかりつけ医が紹介を判断し、かかりつけ医と専門医・専門医療機関で逆紹介や併診等の受診形態を検討する。

腎臓専門医・専門医療機関への紹介目的(原疾患を問わない)

- 1) 血尿、蛋白尿、腎機能低下の原因精査。
- 2) 進展抑制目的の治療強化 (治療抵抗性の蛋白尿(顕性アルブミン尿)、腎機能低下、高血圧に対する治療の見直し、二次性高血圧の鑑別など。)
- 3) 保存期腎不全の管理、腎代替療法の導入。

原疾患に糖尿病がある場合

- 1) 腎臓内科医・専門医療機関の紹介基準に当てはまる場合で、原疾患に糖尿病がある場合にはさらに糖尿病専門医・専門医療機関への紹介を考慮する。
 - 2) それ以外でも以下の場合には糖尿病専門医・専門医療機関への紹介を考慮する。
 - ① 糖尿病治療方針の決定に専門的知識(3か月以上の治療でもHbA1cの目標値に達しない、薬剤選択、食事運動療法指導など)を要する場合
 - ② 糖尿病合併症(網膜症、神経障害、冠動脈疾患、脳血管疾患、末梢動脈疾患など)発症のハイリスク者(血糖・血圧・脂質・体重等の難治例)である場合
 - ③ 上記糖尿病合併症を発症している場合
- なお、詳細は「糖尿病治療ガイド」を参照のこと。

図：かかりつけ医から腎臓専門医・専門医療機関への紹介基準 (作成：日本腎臓学会、監修：日本医師会)

透析が必要ですと言われたら

残念ながら末期腎不全に至った場合にも、腎代替療法を適切に行えば命を落とすことはありません。ただし、腎代替療法のうち、どの治療法が皆さんにとって最良かを総合的に判断する必要があります。学校や仕事が忙しい方は通院回数の少ない腹膜透析が適切かもしれません。腹部の手術歴があり、腹膜の利用が期待できない方は血液透析がよいでしょう。特に若く、ご家族で片方の腎臓を提供いただける方がいらっしゃる方、もしくは長い目で見て献腎移植をご希望される方は東海大学などと協力して適切な医療を提供いたします。これらの選択・判断は大変な作業なので、ご本人に加えてご家族の手助けも必要かもしれません。それをサポートするために医師のみならず、看護師、医療ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士など多くの職種の関わりを必要としますし、相談相手は多いに越したことはないと思います。当院は相談できる相手が豊富な施設です。聞いてみたいことがあればぜひご相談ください。



腎臓内科
ホームページ



朝のカンファレンス



透析計画の作成

新任医師の紹介

令和3年4月1日~7月1日

診療科	氏名	職名	主な資格等
腎臓内科	濱野 直人	医 長	総合内科専門医、透析専門医、腎臓指導医
糖尿病内分泌内科	上田 絢美	医 長	認定内科医、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医
呼吸器内科	小野崎 翔太	医 師	呼吸器一般
呼吸器内科	白取 陽	医 師	呼吸器一般
消化器内科	瀧島 和美	医 師	消化器一般
循環器内科	松田 泰紀	医 師	循環器一般
循環器内科	橋村 美保	医 師	循環器一般
小児科	坂田 雄祐	医 師	小児科一般
小児科	待鳥 航	医 師	小児科一般
小児科	遠坂 崇	医 師	小児科一般
小児科	小松 洋介	医 師	小児科一般
外 科	坂本 陽介	医 師	外科一般
整形外科	佐々木 崇博	医 長	整形外科専門医
整形外科	川島 大輔	医 師	整形外科専門医
整形外科	藤森 翔大	医 師	外傷一般
脳神経外科	新垣 勇大	医 師	脳神経外科一般
脳神経外科	提箸 祐貴	医 師	脳神経外科一般
皮 膚 科	安田 綾子	医 師	皮膚一般
皮 膚 科	下山 奈穂	医 師	皮膚一般
泌尿器科	藤川 直也	担当部長	泌尿器科指導医、日本がん治療認定医、泌尿器腹腔鏡技術認定医
泌尿器科	苅部 勇大	医 師	泌尿器一般
産婦人科	石川 玲奈	医 長	産婦人科専門医
産婦人科	湯本 亜美	医 師	産婦人科一般
産婦人科	櫻井 静	医 師	産婦人科一般
産婦人科	田之井 有華	医 師	産婦人科一般
産婦人科	荒川 聡美	医 師	産婦人科一般
眼 科	佐藤 佑	医 師	眼科一般
耳鼻咽喉科	丸山 祐樹	医 師	耳鼻咽喉科一般
救 急 科	飯塚 進一	部 長	救急科専門医・指導医、外科専門医、外傷専門医
救 急 科	福嶋 友一	担当部長	救急科専門医、ICLSｺｰｽﾞｲﾝﾀｰ、CLS指導者養成ｺｰｽﾞｲﾝﾀｰ
救 急 科	大新田 訓承	医 師	救急疾患全般
麻 酔 科	繁田 正毅	担当部長	麻酔科標榜医、麻酔科認定医
麻 酔 科	盛 直博	医 長	麻酔科標榜医、麻酔科指導医



脳神経外科 医師
提箸 祐貴

自然豊かな小田原で働くことができ大変うれしく思います。小田原地区の地域医療に貢献できるよう精一杯頑張ります。



産婦人科 医師
湯本 亜美

小田原市は山も海もある、きれいな城下町という印象です。小田原市立病院はそんな小田原市にある地域に密着した病院だと思います。丁寧な診療を心がけていたいと思っています。

新看護部長インタビュー

佐々木仁美看護部長は4月から当院に赴任。
県西地域の基幹病院としての市立病院における
今後の目標や取り組み、
市民へのメッセージを紹介します！

佐々木 仁美 (ささき ひとみ)



看護師として横浜市南部病院、横浜船員保険病院を経て2001年から昭和大学横浜市北部病院で勤務。2014年に昭和大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻科博士前期課程修了。研究テーマは看護管理、看護教育、臨床倫理。2021年より現職。認定看護管理者。座右の銘は有言実行。

Q1 看護師を志した きっかけを教えてください

手に職をつけたい、社会貢献できる職業に従事したいという思いと、もともと世話好きなところがありました。学生時代から部活（バレーボール部）で主将を務め、チーム内でリーダーシップを発揮したり責任感が強かったです。母親に一つのことを粘り強くやり抜く力を持っているからと看護師を薦められたことがきっかけです。

Q2 就任後3か月、小田原市立病院の 印象を教えてください

小田原市は、のどかでいいところですね。コロナ禍で飲食店には行けませんが、美味しいお店が多いと伺っているので楽しみにしています。また、県西地域の中核病院として新型コロナウイルス感染症患者さんはもちろんのこと、この地域の患者さんを積極的に受け入れ、スタッフが責任感と使命感を持って働いている姿が印象的でした。

Q3 今後の目標・取り組みを教えてください

県西地域の看護の中核として地域連携の強化に取り組みます。

看護師が医療機関内だけではなく地域に入り、疾病予防や疾患管理に関する看護活動ができる仕組みを確立していきたいと思います。特定看護師、認定看護師の地域訪問と協働・連携機能を強化し、地域の看護職員の皆様と地域へ出向き、応受型だけではなく、デリバリー型の看護が提供できるようなアプローチを考えています。当院には、専門看護師・特定看護師・認定看護師が多数在籍しています。地域のリソースとして活用していただけるような体制の整備に取り組んでいきます。

2025年の超高齢社会の到来に向け、2025年を見据えた社会保障制度改革の動きが進んでいます。少子・超高齢社会における保健・医療・福祉体制の再構築は、看護職が立ち向かっていくべき大きな課題です。変革の時となるこれからの約10年。地域の病院施設、老健施設、訪問看護ステーションなどと連携し、県西地域の看護の中核として、「地域連携の強化」に取り組んでいきます。

市民の皆様へのメッセージ

当院の看護は、患者さん・家族の方の意思を尊重し、「おもいやり」のこころを大切にし、「この病院を選んでよかった」と思ってもらえるよう、信頼に応え、看護の力で「患者さんが笑顔になる」ことを目指します。また、患者さん・家族の方が安心・安全で質の高い医療・介護などのサービスと看護を必要な時に受けられる、切れ目のない地域連携に貢献する病院となるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

コロナ禍でつながる連携の輪

第3波による新型コロナウイルス感染症の急速な拡大に伴い、令和3年1月には、専門病棟を拡充しましたが、急な増床や感染症への長期の対応で当院の看護職員の負担も増えていることから、小田原医師会や訪問看護ステーションを通じて各医療機関等にスタッフの応援について呼掛けをしたところ、複数の医療機関からお声かけをいただきました。ここにお礼を申し上げますとともに、応援に来ていただいた方の声を紹介합니다。

石井呼吸器内科医院



看護師
松岡 大暉さん

Q どのようなお仕事をされましたか？

A. 私は整形外科病棟に配置され、リハビリテーション、検査等に行く患者さんの移送や付き添いを行っていました。その他には入浴介助やシーツ交換なども行いました。

Q 市立病院の感染対策はどうでしたか？

A. おむつ交換の際は一患者さんにつき毎回エプロン、手袋を交換して行うことや患者さんが接触した備品には必ずアルコール消毒を行いました。食事介助の際はエプロンはもちろんフェイスシールドを装着して行っていました。細部まで感染対策がしっかりしていると感じました。

Q 働いてみての感想は？

A. 半日だけしかお手伝いできない日もあり協力といってもあまり貢献できていない部分は多かったと思います。しかし最後まで優しく接してくれた職員の方々、普段できない貴重な経験をさせていただいた小田原市立病院に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

いつも笑顔で患者さんに優しく話しかけ、意欲的に働いていた松岡さんが思い出されます。また、患者さんのケアや搬送等だけでなく、感染予防のための清掃の依頼にも応じて下さり大変助かりました。病棟のスタッフ全員が感謝しています。本当にありがとうございました。

6階西病棟(当時) 看護師長 福岡 成美



高齢者総合福祉施設 潤生園



介護福祉士
加藤 祐貴さん

Q どのようなお仕事をされましたか？

A. ケア全般をさせて頂きました。排泄、入浴、移動、移乗、食事介助を行いました。

Q 普段の職場との違いはありましたか？

A. 生活をメインとしている施設と、治療を目的としている病院では求められていることも大きく違うと改めて認識しました。

そして、患者さんの入れ替わるスピードも大きく違うと感じたところでした。前回来た時にいた患者さんが回復され退院していた事が多かったです。

Q 働いてみての感想は？

A. 日々患者さんが替わっていく中で、適切な判断、ケアが必要となるので、知識・技術が求められました。

看護師、看護助手と職種、業務内容も違いますが、関係性はとても良く、こういったことが日々のケアに活かされているのではと思いました。

スタッフの加藤さんの印象は、温かい、やさしい、丁寧、ゆったりとした空気感を持っているなど好印象のものばかりでした。患者さんに接する態度、姿勢は見習うことが多くサポートしていただきながら学ばせていただいています。病棟スタッフ一同、ありがたく感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。

6階東病棟 看護師長 内藤 智代



新型コロナウイルス感染症対策

感染症対策を強化しています!!

皆様のお身体を病から守るのは、定期的な通院です。

特にがん等の大きな病気は、早期発見が治療の大きなカギとなります。

当院では、患者の皆さんが安心して診療を受けられるよう、これまでの取組に加え、さらに感染対策を強化しておりますのでご紹介します。

外来においては、一般診療の患者さんと発熱患者さんの動線を分離し、入院においては、一般病棟と新型コロナウイルス専門病棟を完全に分離しておりますので、安心してご来院ください。

高精度な PCR 検査機器を導入

令和3年1月からは、今までのLAMP法に加えて、高精度なりアルタイムPCR検査機器も導入して検査を実施するなど、検査体制を強化しています。

なお、当院のPCR検査機器は、変異株の特定も行うことができます。



検査風景

高精度なPCR検査機器

大型空気清浄機を設置

外来においては、これまで行ってきた対策に加え、院内の各所に大型の空気清浄機を設置し、外来診療における感染対策を強化しております。



大型の空気清浄機

メールやLINEの活用

令和3年4月からメールやLINEを活用し、どこにいても携帯電話やスマートフォンで外来診察の診察状況を確認できるサービスを開始しました。診療が近づくと携帯電話やスマートフォンに通知が届くことから、待合室で診察の順番を待つ必要がなくなり、患者さんの利便性向上とともに、密を避ける意味で感染対策としても寄与しています。



LINE登録用

登録手順

- 1「友だちを追加」画面で友達追加
- 2「登録」と送信。メッセージに従い、情報を入力

新型コロナワクチン接種について

当院では、5月25日より65歳以上の当院かかりつけの患者さんを対象に接種を開始しました。

さらに、6月26日からは土日についても接種を開始し、「かかりつけ医療機関のない方」にも対象者を拡大して接種を行っております。今後も、市の方針に基づき、市民の早期接種に向けてワクチン接種に協力していきます。

なお、ワクチンの副反応を正しく理解してもらうために動画を作成いたしました。ホームページやYouTubeで公開するとともに、各医療機関にも動画を提供しております。この動画により皆さんが安心してワクチンを接種できるようになれば幸いです。

ご家族、地域の皆さまの多くの方がワクチン接種を行い、新型コロナウイルスに打ち勝つ免疫を獲得し、安心して生活できる日々を取り戻していけたらと願っております。



ワクチン副反応動画

石井呼吸器内科医院



院長
石井 博司 先生

石井呼吸器内科医院は石井外科胃腸科医院（1973-2005）の後進として、2012年に市内飯泉に開院しました。開院以来、小田原市周辺で呼吸器疾病を患っている方の通院診療の他、豊川周辺の内科診療一般に日々、携わってきました。

開院まもなくより、規模は小さいながらも肺癌・慢性呼吸不全患者を中心とした訪問診療を開始。遠距離通院が困難となった方への在宅医療の提供は本務のひとつと考えています。また当時の地域状況から、他院にかかりつけの方の呼吸器症状について当院にご紹介いただくことがしばしばありましたが、認知症や心疾患などの発症で当院から他院に紹介することは多く、地域における医療機関の横のつながりは患者と家族の「安心」にとって大事なことだな、と日々感じています。

そのような中であって、市立病院や各病院と連携する

機会は多々あります。悪性腫瘍・びまん性肺疾患など、より一段の精査が必要となった患者の紹介（当院→病院）、急性期診療後の通院先としての当院への逆紹介が典型ですが、新型コロナの蔓延以降、相互のやりとりはより切実なものとなりました。2021年、要請に基づいて当院から市立病院に看護師1名に出向してもらいました。今後、地域が迎えるかもしれない新しい局面にバラバラではなく有機的に立ち向かっていくために、何ができるのか考え続けねばならない、と痛感しています。

小田原市を中心とした県西部では近年、諸先輩方の努力で医療介護の各職種を横につなげる取り組みが確実に身になりつつあります。医師会の介護保険・訪問診療委員会担当理事としてそのような地域の場面場面に係わるが増え、協力の輪が広がっていることに心強く思うこともしばしばですし、また身が引き締まる想いです。先だっては地域施設の感染対策に市立病院の職員にご協力いただくということもありました。実に様々な人の地道な協力の上に地域は支えられています。その1ピースとして「我々」を更に役立てていただければ、と念じ、筆を擱くことと致します。

院長 石井 博司



スタッフ



順番待ちサービス



外観

住所 〒250-0863 神奈川県小田原市飯泉 65
電話 0465-48-4159
診療科目 内科 呼吸器内科
診療時間 9:00~12:00/15:00~18:00
休診日：木曜・土曜午後・日曜・祝日